

■ふるさとの「いのち」とふれあう東っ子（笠縫東小学校）

1 【活動の趣旨】

草津市は俳諧の祖といわれる山崎宗鑑の生誕地であり、「俳句のまち草津」としての様々な取組が行われている。

本校でも、3年生以上のすべての児童が俳句を作ることにより、言葉のセンスを磨き季節や季節の移ろいを感じ、笠縫東学区の美しい自然環境や季節ごとの暮らし方の変化を敏感に感じ取る力を育みたいと、長年にわたり俳句作りの取組を行ってきた。

また、その取組をさらに盛り上げるために地域の力を借りて行っているのが、「東っ子句会」である。

2 【特徴的な活動内容】

○「東っ子句会」

3年生以上の学級で、春・夏・秋に詠んだ俳句の中から、学級担任が秀作（学級人数の3割程度）を選ぶ。そして、作者が分からないように無記名で通し番号を付けて学年ごとにまとめて掲示する。句会なので、良いと思う句を選び投票をして1位から3位が決まる。

投票は、3年生が4年生の句に1票。4年生は3年生の句に1票。5・6年生もお互いの学年に1票を投票する。また、本校勤務の職員（教師から給食配膳員まで）は、全ての学年の句に1票ずつを投票する。地域の方も投票に訪れ、学年ごとに1票ずつを投票し、句会の期間が終われば集計をして順位を発表する。

句会の取組は定着しており、子どもたちも楽しみにしている。

「虫にがす ここでいいかと聞いてみる」（3年生）

「あぜ道の赤いじゅうたん 彼岸花」（6年生）



【俳句を見る地域の方】

3 【実施に当たっての工夫】

学校内だけでなく地域の人にも句会の投票に加していただくことで、取組が広がり盛り上がる。そこで、子どもがお世話になった学習ボランティアや民生委員児童委員、スクールガードの方に投票してもらっている。



【地域の方と1年生】

4 【事業の成果】

- ・子どもたちに関係の深い地域の人たちが投票に来ることで、子ども達との関係がさらに深まっている。
- ・学校にとっても地域にとっても「東っ子句会」は、関心のある行事となり「今年は、どの俳句がえられたのか。」と尋ねられるほどである。結果は「学校だより」やまちづくりセンターの広報にも掲載している。

5 【事業実施上の課題・今後の連携・協働活動実施に向けて】

コロナ禍が明け、学区の「東まつり」が復活すれば、もっと多くの人々に投票してもらうことができる。活動によっては学習ボランティアの高齢化による見直しが必要だが、「東っ子句会」は持続可能な活動である。